



令和5年4月より看護部長に牧野真美が就任致しました

早くも夏本番を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は、本年4月よりJCHO四日市羽津医療センターの看護部長に就任いたしました牧野真美と申します。名古屋市南区にありますJCHO中京病院より転勤し、わからないことばかりでしたが、皆様に支えて頂きながらなんとか4か月を過ぎようとしております。

3年間におよぶ新型コロナウイルスとの戦いも収束を迎えたところに転勤となり、ますます落ち着いたスタートを切れたことに感謝しながら日々業務に当たっております。

私は1985年に社会保険中京看護専門学校を卒業後、中京病院の熱傷センター・形成外科・皮膚科病棟に勤務し、その後産婦人科外来、消化器外科病棟、産婦人科病棟、血液内科・眼科病棟での勤務を経て2016年には教育担当看護師長を経験致しました。教育担当看護師長を通して、組織にとって最も大事な人材育成に専念できたことはとても勉強になり大学や大学院への進学もしながら自身の成長に努めました。なかでも消化器外科病棟での経験が最も長く最も楽しく、看護師人生に大きな影響を受けたと思っています。その後2017年から2019年まで、岐阜県にありますJCHO可児とうのう病院へ副看護部長として3年間赴任いたしました。スタッフの皆さんと看護研究や看護倫理に取り組みながら「患者さんにとっての最善の看護」の追求をし、この3年間は私にとってかけがえのない宝物のような時間でした。今でもとても感謝しています。

2020年よりJCHO中京病院に戻りましたが、このたびご縁があり四日市羽津医療センターに赴任いたしました。このご縁を大切に、今までの経験を活かしながら微力ですが地域の皆さまに選んでいただき、頼りにして頂けるような病院運営に努めていきたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



文責：四日市羽津医療センター

認定看護管理者・看護部長 牧野真美



特定認定看護師・認定看護師8分野9名のご紹介

がん化学療法看護認定看護師・認定看護管理者：中村 吉孝

がん化学療法看護は、がん化学療法を受ける患者さんとその家族を支え、安全を守っていくことを使命としています。化学療法は複雑で不確実な部分も多くあります。その中で近年、化学療法の場合は入院から外来へとシフトしています。その為患者さん及びご家族の方が病気を理解し、治療の副作用に対して予防・早期発見・対処を自宅でできる必要があります。私たちは患者さんの生活の視点から個別的、継続的なケアを提供し、患者さんのセルフケア能力を高めるように取り組んでいます。また、治療が安全に行えるように自主的な監査を継続して行い、安全で安心した治療が行えるように心がけています。

がん性疼痛看護認定看護師：山口 裕子

がん患者さんでは、約70%の方が痛みを体験すると言われていています。がん患者さんの体験する痛みは、身体的な苦痛だけでなくこころや社会生活にも大きな影響を及ぼします。がん性疼痛看護認定看護師は、治療期から終末期に至るまで、適切に身体状況をアセスメントし、鎮痛剤の評価と疼痛緩和に対する看護ケアを提供します。患者さんやご家族に寄り添いながら、それぞれの患者さんに最も適した緩和がはかれるよう、患者さんとご家族のQOL(生活の質)の向上を目指します

クリティカルケア特定認定看護師：伊藤 香菜子

救急や集中治療の場は、突然発生した病気やケガにより身体的・精神的危機状態にある患者さんが多くみえます。限られた情報の中で患者さんに寄り添い医師など多職種とチーム医療を行うことで、可能な限り早く危機の状態から脱するようサポートするのがクリティカルケア看護であり、患者さんと同様に精神的な危機状態にある家族への援助も大切な役割です。また、クリティカルケア認定看護師として、活動の場を地域へと広げ、救命講習や応急処置・来る巨大地震に対する災害対策など様々な形で地域の健康を守る一助を担いたいと日々努力しています

皮膚・排泄ケア特定認定看護師：櫻井 亜沙子

皮膚・排泄ケア看護(Wound Ostomy and Continence Nursing)とはストーマ造設や褥瘡及び排泄障害に伴い生じた問題やケア相談を専門的な視点からアセスメントを行い、個人に適した排泄管理や適切な皮膚ケアを実践・指導します。清潔排泄は人間にとって基本的な生活行動であり、本人や家族が望むニーズに少しでも応じられるように、医師、担当看護師、栄養士、薬剤師、または地域医療に従事している方々と連携をとっています。より快適な日常生活を過ごしていただけるよう、専門的な観点からサポートができればと考えています。

糖尿病看護特定認定看護師：平岡 めぐみ

糖尿病看護認定看護師は、糖尿病患者さんが生涯にわたり糖尿病とうまく付き合いながら、その人らしく生活していくためのサポートパートナーです。一人ひとりを身体・心理・社会的側面から幅広く捉え、その人のよりよい人生のために日々の生活の中で行える食事・運動・薬物療法を一緒に考えていきます。また、2020年に特定行為研修「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」を修了し、医師からの事前指示のもと「患者さんの生活に合わせたインスリン投与量の調整」を行うことが可能となりました。患者さんの身体状況を把握し、生活状況やさまざまな思いに合わせたタイムリーなインスリン調整をご提案できるように日々努力しています。

感染管理認定看護師：法山 志穂

感染症はたくさん存在していて、細菌やウイルスは目に見えない為いつ感染してしまうか分からない厄介なものです。病院においては、入院したり治療・手術を行ったり、元々の病気で免疫力が低下することで人は感染しやすい状態になります。そのような患者さんが感染から身を守るように、当院では感染制御チーム(Infection Control Team: ICT)や感染リンクナーズ委員会を通じて、院内感染の情報を共有したり、早期に対策を立てて実践することで、感染や感染拡大の防止に努めています。これからも患者さんが安全にかつ安心して入院や治療ができ、また職員が安心して働くことができるような職場環境を整えられるように活動していきたいと考えています。

訪問看護認定看護師：東川 亜依子

訪問看護とは、病気や障害を持っていても住み慣れた地域、我が家で自分らしい生活を送りたいと願う方々を支援するサービスです。サービスの内容は病状の観察から身体の保清、食事や排泄の援助、リハビリ、在宅酸素などの医療機器の管理、認知症ケアがん末期などを含む終末期ケア、その他ご家族様の介護相談の対応と幅広いサービスを提供させていただいております。訪問看護師が利用者様のお宅に訪問し、医師の指示のもと関係職種と連携をとりながら在宅療養を総合的に支援いたします。在宅での生活は病状の進行による苦痛や将来の不安、介護疲れなど様々な問題が生じてきます。それでも自分らしく納得のいく生き方をしたい、そんな思いを大切にしながら地域の方々の生活のお手伝いをさせていただいております。

認知症看護認定看護師：水谷 穂身・新 博恵

認知症看護認定看護師の役割は、認知症の人の『意思を尊重』し『権利を擁護』し、認知症の発症から終末期に至る病状の管理を行い、認知症の人にとって安心して安全な生活・療養環境が維持できるように調整していきます。認知症の人や、そのご家族の不安な気持ちに寄り添い、多職種の方々と協働しながら安心して治療が受けられ、住み慣れた場所へ戻れるように地域にも貢献して行きたいと思っています。



四日市羽津医療センター 地域医療連携室 すずらん

〒510-0016 四日市市羽津山町10-8 病院代表TEL：059-331-2000

すずらん直通TEL：059-331-6003 すずらん直通FAX：059-331-6004

